30

極秘

内閣情報部五・六　情報第三號

重慶U・P新聞電報放送（三日）　（朝鮮總督府遞信局聽取）

本日午後焔を交へた濠々たる黑煙が重慶市を蔽ひ、數百の消防隊と徵發された苦力達は一月中旬以來最初の首都空襲に因る大火を阻止せんと努力した。オブザーヴアによれば日本機四十五機がこの空襲に參加したが、僅かに二十二機がどうにか重慶へ達し得られ、殘餘は下流で支那側に阻止されたといはれる。支那側は日本爆擊機三臺を擊墜したと見てゐるが、UP記者も其の一臺と二名の日本人が落下傘で降りるのを目擊した、しかし外人オブザーヴア達は市の上空で開始され、上流で續けられた空中戰で日本機一臺、支那機二臺が擊墜されたと主張してゐる。日本機は主として燒夷彈及輕量の破壞彈を投下し、河岸四分の一哩を含む七箇所に火災を起さしめた。YMCAの構内に一箇、同じく外門に一箇の不發彈が發見された爆擊された唯一の外人財産は佛支船舶會社で、之には直接爆彈が命中した。市街は倒壞物の山、縺れ絡んだ電線の起伏、空は黑煙に覆はれてゐる、ビシネス街の電線が損じて電燈、電話は一切不通となつた。空襲が終つたとき市街は通行不能となり、支那人の群衆は延燒の危險ある區域より運び出した家財道具を持つて揚子江の兩岸や中央公園に群がつてゐた。襲擊機は二回市の上空を飛び、それから上流より市の商業・住宅街を掠め、二分間足らずの間に

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

爆彈全部を投下し、政府區域の爆撃を試みなかつたのであるから、此の空襲の目的が重慶市の壞滅にあつたことは明かである、日本機は爆撃に機銃掃射を交へ、空は高射砲、機開銃よりの榴霰彈で屢々一杯になつた。揚子江上は崩壞物で蔽はれ、又爆彈が河岸に命中して數隻の舢板が破壞せられ、數箇の屍体が漂つてゐた。死傷者は五百で死者は百名と見積られてゐるが、火災が鎭火し崩壞物の取片付けが濟む迄は詳細不明である。

一寸前の信頼すべき報告は避難民三百のゐた難民家屋が爆彈によつて埋もれたので死傷者一千であると評してゐる、しかし其の全部が死んだかどうかは判明しない、有力紙「大公報」共産黨機關紙「新華日報」、「西安日報」及「新蜀報」の四つの新聞社も爆撃され、後の二つは印刷工場を破壞されたので直ぐに發行は不可能である。重慶防空司令部に命中したのは破壞彈であつたが、倉庫に貯へてあつた多量のガソリン、石油が炎上し忽ち地獄と化した。

この空襲によつて新たに全市に設けられた空襲避難壕の効力が立證された、一千の死傷者は膨脹してゐる當地の人口を考慮すれば最少限のものと認められるからである、又新設貯水タンク及び早い火の廻りを阻止した消火隊の能力も認められた。

重慶ロイテル新聞電報放送（三日）（朝鮮總督府遞信局聽取）

本日正午過ぎ重慶本市の密集區域は初めて日本機の猛爆を受けたが、この時日本爆撃機は揚子江北岸に沿ふ繁華街に爆彈の雨を降らせ戰時首都の多數各所に大火を起さしめ數百の死傷者を出さしめた。ロイテルの事務所は周圍に爆彈三十箇以上を投下せられたが幸くも難を免れた、最も近かつた爆彈は僅かに十呎を隔てる露路の向側にある家屋の屋根を貫いたが幸にも不發であつた、更に十五碼を隔てた地點に爆彈二箇が投下され、フランス國旗を掲げてゐた支佛船舶會社を粉碎した、建物は壞滅して車庫にあつた自動車も破壞された、四人の支那人が崩壞物の下敷となつたが、これ迄に二人だけ救ひ出された、この爆彈は燒夷彈ではなかつたので火災は起らなかつたが、百碼を隔てた現場は最も悲慘で數箇の燒夷彈によつて數十戸の建物が炎上した、木造建でしかも密接してゐたので火の廻りが早く有力支那紙「大公報」の事務所を破壞した。揚子江水面の渡船所では少くも七十名の死者を出した、此處には群衆が揚子江の南岸に渡らうとしてつめ寄せてゐたが、汽船が渡船を曳く寸前に爆彈が渡船に命中したのである。又爆彈數箇が長江南岸に碇泊してゐた、英・米砲艦より半哩内の長江に落下した。更にロイテル事務所より二百碼下手、市公園の西端となつてゐる丘の中腹三ケ所に大火が起つた、市公園を俯